

# ペットボトルキャップ 約20万2千個を回収

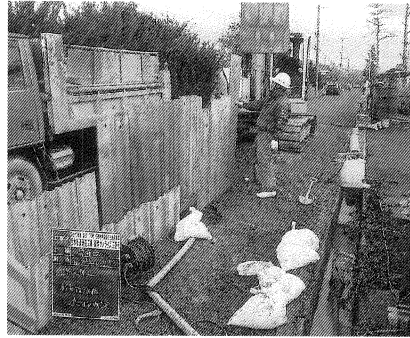
— 日野駅前通り共栄会 —



日野駅前通り共栄会により昨年7月5日から始められたペットボトルキャップのリサイクル。これらのペットボトルキャップは「モップの柄」などに生まれ変わります。町内72か所に回収ボックスを設置し、3月末日までに約20万2千個（504・9kg）のペットボトルキャップを回収されました。共栄会では引き続きペットボトルキャップの回収の協力を呼びかけておられます。

## 公共下水道 6月1日から

### 豊田3区・湖南サンライズの一部で 供用を開始します



日野町の公共下水道事業は、平成7年度に供用開始された内池・里口・上野田地区から整備を始めて以降、日野地区・西大路地区・必佐地区ならびに西桜谷地区の各一部で整備を進めてきました。

そして、この6月1日から新たに豊田3区・湖南サンライズの一部で公共下水道整備が完了し、ご利用いただけることとなりました。

住みよいきれいなまちを  
みんなでつくりましょう！



下水道法では、供用開始区域の建築物所有者に対して、宅内排水設備のすみやかな設置と、3年以内の水洗便所への改造を義務付けています。公共下水道への接続をご計画いただきますようお願いいたします。

## 綿向雑感

日野町長 藤澤直広

新緑の五月。

谷あいの棚田に水が張られ、木々の緑が水面に映る。かつて、ゴールデンウィークといえ、泥だらけになっ

て田植え前の代掻きばかりをしていました。太ももまでのゴム長靴をはき、ビニール製の前掛けをして水田車輪をつけた耕耘機と一緒に田圃の中を歩く。仕上げは、足場板を曳いて田面を均平にする。1畝（1アール）や2畝の小さな田圃を何枚もきれいに仕上げている。さすがに一日やればクタクタに疲れもしましたが、何か達成感のようなものを感じたものでした。

今は、トラクタにドライブハローをつけての代掻きで随分楽になりましたが、米を収穫するまでには色々な作業が必要です。豊かに稔れと一つひとつの作業に心を込めます。ところが米の価格は1俵（60kg）1万円を下回りました。なんと35年前の昭和48年の価格と同水準です。中国ギョウザ事件で

食の安全が大きな関心事となりましたが、お金で安全も食糧も買えない時代になっていることに多くの人が気づいています。食糧自給率の向上と農業の再生に国をあげて取り組むことが必要だと思います。

食は、暮らしの基本であり、春になるとすぐに町内のそこかしこで五穀豊穣を願って祭りが行われます。祭りを維持するにはお金や労力、そして、何よりも心意気が必要です。人が集まり、力を合わせなければ祭りは成り立ちません。祭りは民衆の力の象徴です。日野祭の曳山をはじめ、神輿、ホイノボリ、雅楽などなど祭りの形態は地域によって色々ですが、共通するのは共に暮らす地域の人々の存在と役割を再確認し、酒を酌み交わし盛り上がることです。苦労も少なくないけれど、その分だけ達成感がある祭りの雰囲気はいいものです。

この町には地域や町を大切に思う人々がたくさんいます。そして、こうした力が日野町の活気とまちづくりのエネルギーの源になっているのではと思います。